

建交労の福富です

私は、全労連第30回定期大会に示されました方針等を支持し、建交労のこの一年のとりくみを報告し討論に参加するものです

○業種部会のとりのくみ

私たち建交労は、トラックやダンプ、JR関連、クレーンなどの重機やミキサー車などのセメント関連、学童保育の指導員、清掃や競艇・競輪などの自治体関連労働者、そして、事業団で働く仲間や労災療養中の仲間など、様々な業種の仲間が結集しています。

そして、それぞれの業種部会がそれぞれの政策などを確立し、制度等の実現にむけて、この一年間も奮闘してきました。

ダンプの仲間は、交通安全を遵守する組合員のダンプの使用を促進すべく過積載根絶にむけた取り締まりや荷主・荷受人への追及と罰則強化を求めて警察庁への要請、大手ゼネコンへの要請、東日本大震災の復興工事のすすむ仙台での宣伝行動を展開してきました。

トラックの仲間は、運転手の高齢化や深刻な人手不足に対し、トラック労働者の労働条件改善にむけ、2018年12月に議員立法により可決・成立した改正「貨物自動車運送事業法」の実効性確保に向けた運動をおこなっていきます。また、運転手の長時間・過密労働の解消に向けて改善基準告示の見直しを求めとりくんでいます。

建交労の仲間がたたかっているトンネルじん肺根絶闘争では、トンネル工事現場から、職業病であるじん肺の発生を防止すべく、来年四月から粉じん濃度測定を義務付けることを法制化させました。

この間に全国各地のトンネル工事現場を渡り歩くトンネル坑夫の職歴・特別安全教育の受講歴・健康診断の受診歴を一元的に管理するシステムを国につくらせたことと併せ、そうした中、不幸にしてじん肺にり患した仲間を裁判なしで救済される制度の実現に力を入れているところです。議員立法による制度創設を求め、春先には野党のほぼ全議員、与党では自民党7割、公明党全議員から賛同署名を獲得してきたところです。今国会では、残念ながら実現はしませんでした。秋の臨時国会では運動を強めて獲得するものです。

○コロナ・水害

多くの仲間が述べられる様に新型コロナウイルス感染症は、本当に苦しいたたかいでした。3月2日から学校の一斉休校が始まりました。厚生労働省は事務連絡で「感染予防に留意したうえで、原則として開

所する」ことを求めてきました。わずか1～2日で全国の学童保育は朝からの対応を迫られました。建交労の学童保育の仲間は、厚生労働省との3月4日の交渉をはじめ要請等を繰り返し、臨時の開所に伴う財政補助、感染防止のための備品購入費の補助などを求め、臨時の部会ニュースを頻繁に発行し、かちとった成果や情報を仲間に知らせ、公費の獲得に取り組む様にすすめていきました。

トラックの仲間は、国内輸送の9割以上を担っており、人々の生活を守るために、感染リスクの中にあっても、必死にハンドルを握り続けてきました。トラックドライバーが誹謗中傷されたり、愛媛県などではドライバーの子供が差別的な扱いを受けるということもありました。自粛の中で事業が大幅に縮小されて賃金が下がり生活が困難になっている仲間も少なくはありませんでした。だからこそ労働組合が必要だと3密に気を付けながら各地で宣伝行動にもとりくみました。

清掃の仲間は、緊急事態宣言のもとであってもゴミや廃品を回収して仕事をしてきました。マスクなどを支給してくれない会社もあり、感染防止対策を要求してきました。

競艇や競輪で働く仲間たちは、無観客レースの中、休業補償の支給を求め交渉を繰り返し成果を獲得しています。

労災で療養中の仲間たちは、各地の労働行政と交渉し、通院が困難となった際の対応などで成果をあげてきました。

また、職場ではなく地域を視野に組織化を進めている支部などでは、組合員さんのみならず、その家族や友人をはじめとした地域の人々を対象としたコロナによる生活相談の窓口を他の労働組合や民主団体と共同で開設したとりくんだ組織も出てきました。

そのひとつの福岡の大牟田支部では、緊急事態宣言下のみならず今月初旬に発生した水害の際にも、罹災した組織や地位の仲間たちのために奮闘しています。

○10万人要求アンケートと秋のたたかい

建交労は、他の労組の皆様と同様に毎年アンケートにとりくんでいます。幾つもの職種の間が結集する建交労では、アンケートも、トラックやダンプ、学童保育など11種類の業種別とトラック経営者用と多彩にあり、10万人の人々と対話することをめざすものです。

来月の下旬頃には、全国各地におろします。コロナがまん延する中で、多くの人々が苦しんでいます。このアンケートで対話し、要求を引き出し組織し、来春闘にむけ運動を前進させるものだと確信し、発

言とさせていただきます。